

第3問 次の【文章Ⅰ】は『大和物語』の一節、【文章Ⅱ】は『今昔物語集』の一節である。【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んで、後の問い(問

1～6)に答えよ。(配点 50)

【文章Ⅰ】

(注1) むかし、大和の国、葛城の郡にすむ男女ありけり。この女、顔かたちいと清らなり。年ごろ思ひかはしてすむに、この女、いとわろくなりければ、思ひわづらひて、かぎりなく思ひながら妻をまうけてけり。この今の妻は、富みたる女になむありける。(ア) ことに思はねど、いけばいみじういたはり、身の装束もいと清らにせさせけり。かくにぎははしき所にならひて、来たれば、この女、いとわろげにてあて、かくほかにありけど、(ウ) さらにねたげにも見えずなどあれば、いとあはれと思ひけり。心地にはかぎりなくねたく心憂く思ふを、しのぶるになむありける。とどまりなむと思ふ夜も、なほ「いね」といひければ、わがかく歩きするをねたまで、ことわざするにやあらむ。さるわざせずは、恨むることもありなむなど、心のうちに思ひけり。さて、いでていくと見えて、(エ) 前栽の中にかくれて、男や来ると、見れば、はしにいであて、月のいとみじうおもしろきに、かしらかいけづりなどしてをり。夜ふくるまで寝ず、いといたうち嘆きてながめければ、「人待つなめり」と見るに、使ふ人の前なりけるにいひける。

(注2) (ア) 風吹けば沖つしらなみたつた山夜半にや君がひとりこゆらむ
とよみければ、わがうへを思ふなりけりと思ふに、いと悲しうなりぬ。この今の妻の家は、龍田山こえていく道になむありける。

(『大和物語』による。)

【文章Ⅱ】

(注2) 今は昔、丹波国に住む者あり。田舎人なれども心に情有る者なりけり。其れが妻を二人持ちて家を並べてなむ住みける。本の妻は其の国の人にてなむ有りける。其れをば静げに思ひ、今の妻は京より迎へたる者にてなむ有りける。其れをば思ひ増さり

たる様なりければ、本の妻、「心疎し」と思ひてぞ過ぐしける。

而る間、秋、北の方に、山郷にて有りければ、後の山の方にいと哀れ気なる音にて鹿の鳴きければ、男、今の妻の家に居たりける時にて、妻に、「此は何が聞き給ふか」と云ひければ、今の妻、「煎物にても甘し、焼物にても美き奴ぞかし」と云ひければ、男、心に違ひて、「(オ)京の者なれば此様の事をば興ずらむ」とこそ思ひけるに、少し心月無し」と思ひて、只本の妻の家に行きて、男、「此の鳴きつる鹿の音は聞き給ひつや」と云ひければ、本の妻、此くなむ云ひける、

〔B〕 われもしかなきてぞきみにこひられしいまこそをよそにのみきけ

と。男此れを聞きて、極しく哀れと思ひて、今の妻の云ひつる事思ひ合はせられて、今の妻の志失せにければ、京に送りてけり。然て本の妻となむ棲みける。

思ふに、田舎人なれども、男も女の心を思ひ知りて此くなむ有りける。亦、女も心ばへ可咲しかりければ、此くなむ和歌をも読みけるとなむ、語り伝へたるとや。

〔今昔物語集〕による。

(注) 1 大和の国——現在の奈良県。

2 丹波国——現在の京都府中部と兵庫県北東部。

問1 傍線部(ア)「いとわろくなり」の内容について説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は

1

- ① 病気になり、容体がとても悪くなったということ。
- ② 容姿が衰え、とても醜くなったということ。
- ③ 性格が悪くなり、大変陰気になったということ。
- ④ 家がとても貧しくなったということ。
- ⑤ 二人の仲がとても悪くなったということ。

Cambridge